

(2) 死 亡

ア 死亡数及び死亡率

死亡数は63,466人で、前年の62,565人より901人増加した。

死亡率は人口千人に対し8.9で、前年の8.7を0.2ポイント上回った。全国（10.5）より1.6ポイント下回っている。

死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年5.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。（表－7、図－5）

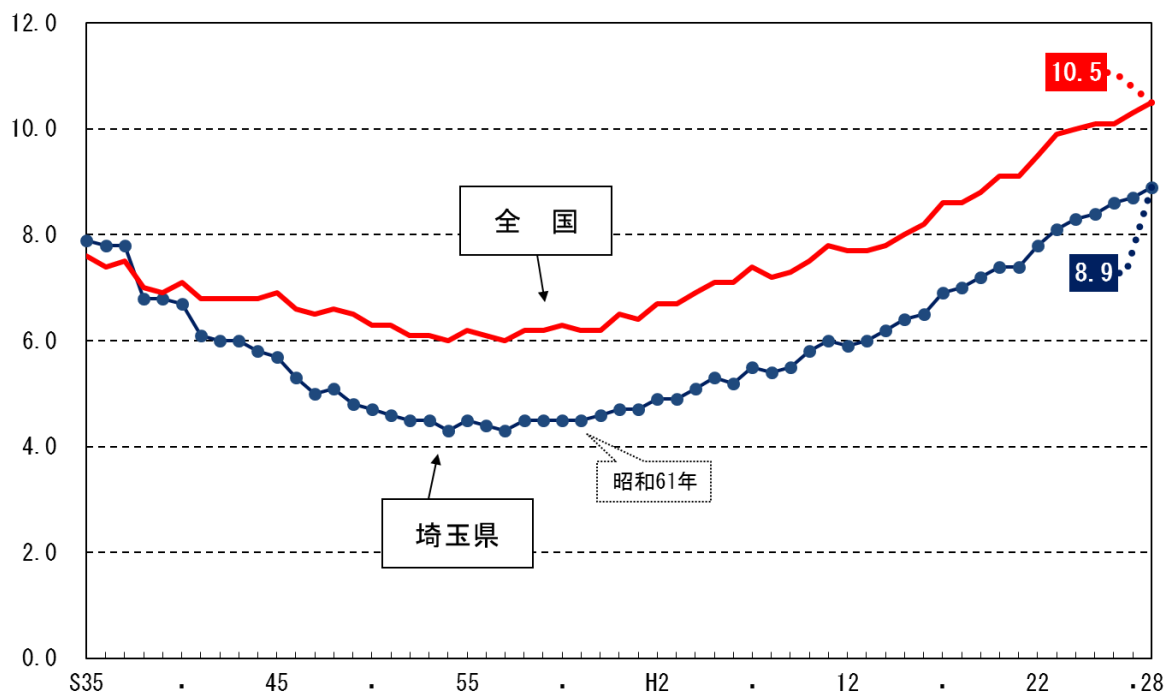
表－7 死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222
	全 国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9
	全 国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7
		7	12	17	22	26	27	28
数	埼玉県	36 799	40 486	48 095	55 487	61 269	62 565	63 466
	全 国	922 139	961 653	1 083 796	1 197 012	1 273 004	1 290 444	1 307 748
率	埼玉県	5.5	5.9	6.9	7.8	8.6	8.7	8.9
	全 国	7.4	7.7	8.6	9.5	10.1	10.3	10.5

注：率は人口千対である。

図－5 死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口千対）



イ 都道府県別にみた死亡率

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和 63 年以降平成 13 年まで低率順で第 1 位、平成 14、15 年は沖縄県に次いで第 2 位、平成 16 年以降は沖縄県及び神奈川県に次いで第 3 位となっていた。しかし平成 26 年に東京都が第 3 位、愛知県が第 4 位となり、埼玉県は第 5 位となった。平成 27 年以降は愛知県が第 5 位となり、埼玉県は第 4 位である。(表-8)

表-8 都道府県別にみた死亡率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高率順	全 国	6.3		全 国	6.7		全 国	7.4		全 国	7.7		全 国	8.6	
	高 知	8.7	1	高 知	9.3	1	島 根	10.0	1	高 知	10.2	1	島 根	11.6	1
	鹿 児 島	8.5	2	島 根	9.1	2	高 知	9.9	2	島 根	10.2	2	高 知	11.5	2
	島 根	8.3	3	鹿 児 島	8.8	3	鹿 児 島	9.6	3	秋 田	10.1	3	秋 田	11.4	3
	和 歌 山	8.2	4	徳 島	8.7	4	鳥 取	9.4	4	山 口	10.0	4	山 口	11.2	4
	徳 島	8.0	5	和 歌 山	8.7	5	山 口	9.4	5	鳥 取	9.7	5	山 形	11.0	5
	山 形	7.8	6	鳥 取	8.5	6	和 歌 山	9.4	6	徳 島	9.7	6	和 歌 山	10.9	6
	鳥 取	7.8	7	山 口	8.5	7	徳 島	9.2	7	和 歌 山	9.6	7	鹿 児 島	10.9	7
	大 分	7.8	8	山 形	8.3	8	秋 田	9.0	8	山 形	9.6	8	徳 島	10.7	8
	山 口	7.7	9	大 分	8.3	9	佐 賀	9.0	9	鹿 児 島	9.5	9	岩 手	10.6	9
佐 賀	7.6	10	佐 賀	8.3	10	愛 媛	9.0	10	大 分	9.3	10	愛 媛	10.6	10	
低率順	沖 縄	4.5	1	埼 玉	4.9	1	埼 玉	5.5	1	埼 玉	5.9	1	沖 縄	6.7	1
	埼 玉	4.5	2	神 奈 川	5.0	2	神 奈 川	5.7	2	神 奈 川	6.0	2	神 奈 川	6.8	2
	神 奈 川	4.6	3	千 葉	5.2	3	沖 縄	5.8	3	沖 縄	6.1	3	埼 玉	6.9	3
	千 葉	4.8	4	沖 縄	5.3	4	千 葉	6.0	4	千 葉	6.3	4	千 葉	7.4	4
	愛 知	5.1	5	愛 知	5.7	5	愛 知	6.3	5	愛 知	6.6	5	愛 知	7.4	5
高率順	全 国	9.5		全 国	10.1		全 国	10.1		全 国	10.3		全 国	10.5	
	秋 田	13.2	1	秋 田	14.2	1	秋 田	14.6	1	秋 田	14.5	1	秋 田	15.1	1
	高 知	12.8	2	高 知	13.8	2	高 知	13.6	2	島 根	13.9	2	高 知	14.4	2
	島 根	12.8	3	島 根	13.7	3	島 根	13.5	3	高 知	13.8	3	島 根	14.0	3
	山 口	12.3	4	山 形	13.2	4	山 形	13.4	4	山 形	13.4	4	山 形	13.7	4
	山 形	12.1	5	山 口	13.1	5	和 歌 山	13.0	5	青 森	13.1	5	岩 手	13.4	5
	和 歌 山	12.1	6	和 歌 山	13.1	6	徳 島	13.0	6	徳 島	13.1	6	青 森	13.4	6
	鹿 児 島	11.9	7	徳 島	13.1	7	青 森	12.9	7	和 歌 山	13.1	7	山 口	13.3	7
	徳 島	11.9	8	青 森	12.8	8	鹿 児 島	12.9	8	山 口	13.1	8	和 歌 山	13.3	8
	岩 手	11.9	9	鳥 取	12.7	9	山 口	12.8	9	鹿 児 島	13.0	9	鹿 児 島	13.3	9
鳥 取	11.9	10	鹿 児 島	12.6	10	岩 手	12.7	10	岩 手	12.9	10	徳 島	13.2	10	
低率順	沖 縄	7.3	1	沖 縄	7.8	1	沖 縄	8.1	1	沖 縄	8.0	1	沖 縄	8.2	1
	神 奈 川	7.6	2	神 奈 川	8.1	2	神 奈 川	8.3	2	神 奈 川	8.4	2	東 京	8.6	2
	埼 玉	7.8	3	埼 玉	8.4	3	東 京	8.5	3	東 京	8.5	3	神 奈 川	8.6	3
	愛 知	8.1	4	東 京	8.5	4	愛 知	8.6	4	埼 玉	8.7	4	埼 玉	8.9	4
	東 京	8.1	5	愛 知	8.6	5	埼 玉	8.6	5	愛 知	8.8	5	愛 知	8.9	5

注1：率は人口千対である。

注2：順位の数出には、小数点第2位以下を考慮している。

ウ 死因

(ア) 死因順位

平成28年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 19,148人（死亡総数の30.2%）、第2位は心疾患 10,026人（15.8%）、第3位は肺炎 6,543人（10.3%）、第4位は脳血管疾患 5,159人（8.1%）、第5位は老衰 3,510人（5.5%）となっている。

死亡率（人口10万対）を前年と比較すると、悪性新生物（267.1）が4.2ポイント、肺炎（91.3）が2.1ポイント、脳血管疾患（72.0）が0.2ポイント、老衰（49.0）が3.0ポイント、不慮の事故（20.3）が0.7ポイント、大動脈瘤及び解離（11.7）が1.6ポイント上昇した。一方、心疾患（139.9）が1.5ポイント、自殺（16.7）が1.3ポイント、腎不全（15.8）が0.1ポイント低下した。肝疾患（10.9）は同率であった。（表－9）

表－9 主な死因別死亡数及び死亡率（対前年比較）

埼玉県

死 因	平成28年			平成27年			平成27年との比較		
	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合
総 数	63 466	885.3	100.0	62 565	873.8	100.0	901	11.5	
悪 性 新 生 物	19 148	267.1	30.2	18 823	262.9	30.1	325	4.2	0.1
心 疾 患	10 026	139.9	15.8	10 123	141.4	16.2	△ 97	△ 1.5	△ 0.4
肺 炎	6 543	91.3	10.3	6 384	89.2	10.2	159	2.1	0.1
脳 血 管 疾 患	5 159	72.0	8.1	5 143	71.8	8.2	16	0.2	△ 0.1
老 衰	3 510	49.0	5.5	3 294	46.0	5.3	216	3.0	0.2
不 慮 の 事 故	1 455	20.3	2.3	1 406	19.6	2.2	49	0.7	0.1
自 殺	1 194	16.7	1.9	1 287	18.0	2.1	△ 93	△ 1.3	△ 0.2
腎 不 全	1 132	15.8	1.8	1 138	15.9	1.8	△ 6	△ 0.1	-
大動脈瘤及び解離	840	11.7	1.3	724	10.1	1.2	116	1.6	0.1
肝 疾 患	784	10.9	1.2	782	10.9	1.2	2	-	-
小 計	49 791	694.5	78.5	49 104	685.8	78.5	687	8.7	-
そ の 他	13 675	190.8	21.5	13 461	188.0	21.5	214	2.8	-

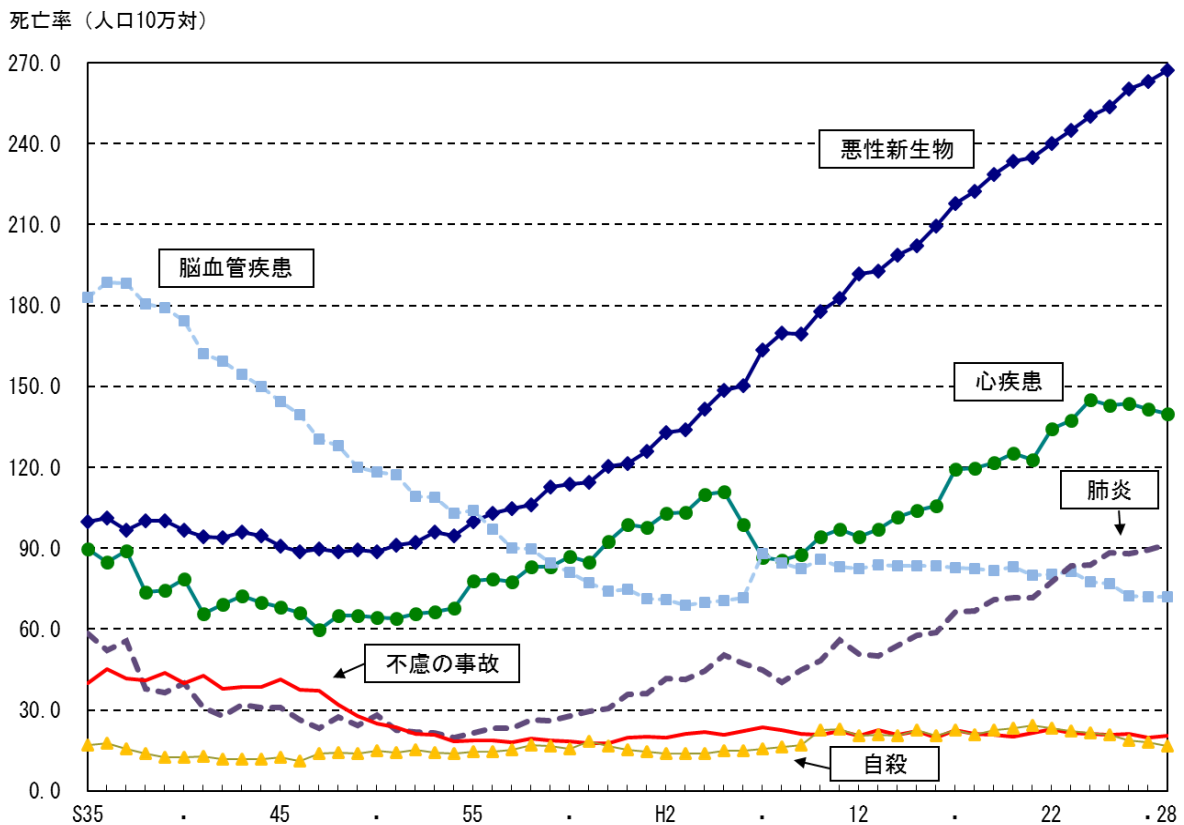
死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇が続き、平成15年には200.0を超え、平成28年は267.1となった。また、死因順位は、昭和56年以降第1位となり、平成28年の死亡総数に占める割合は30.2%となっている。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。平成28年の死亡総数に占める割合は15.8%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にある。平成23年には、肺炎にかわり第4位となり、平成28年の死亡総数に占める割合は8.1%となっている。（表－9、図－6）

なお、平成6、7年の心疾患及び脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる（図－6の「注」を参照）。

図－6 主要死因別死亡率の年次推移（埼玉県）



注：死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

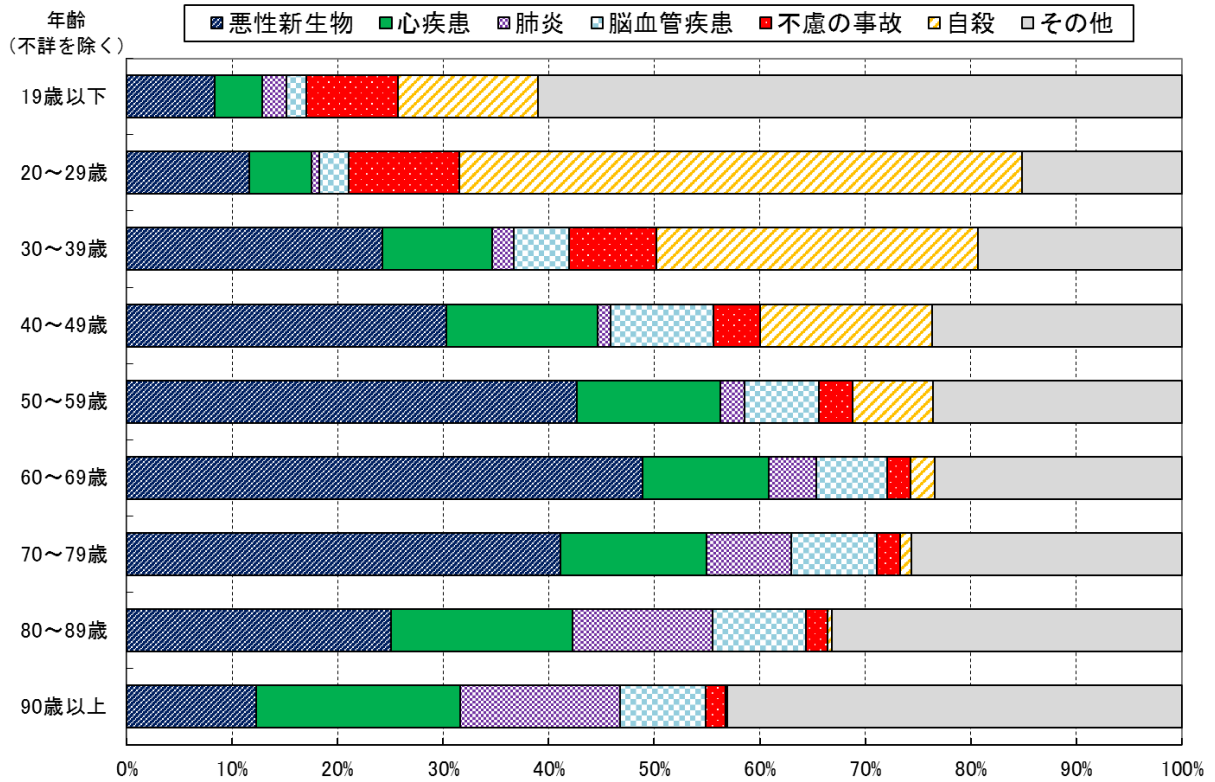
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。

なお、逆に肺炎は減少している。

年齢階級別に死因別割合をみると、30歳代以下では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。（図－7）

図－7 年齢階級別にみた主要死因別割合（埼玉県）



(イ) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は19,148人で、死亡総数の30.2%を占めている。つまり、全死亡者のおよそ3人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、70～79歳が6,428人で最も多く、次いで80～89歳が5,513人、60～69歳が3,878人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が48.9%で最も多く、次いで50～59歳が42.7%、70～79歳が41.1%の順となっている。（表－10）

死亡率は人口10万人に対し267.1で、前年より4.2ポイント上昇した。全国は前年より2.8ポイント上昇し298.3である。埼玉県及び全国の死亡率は上昇を続けている。

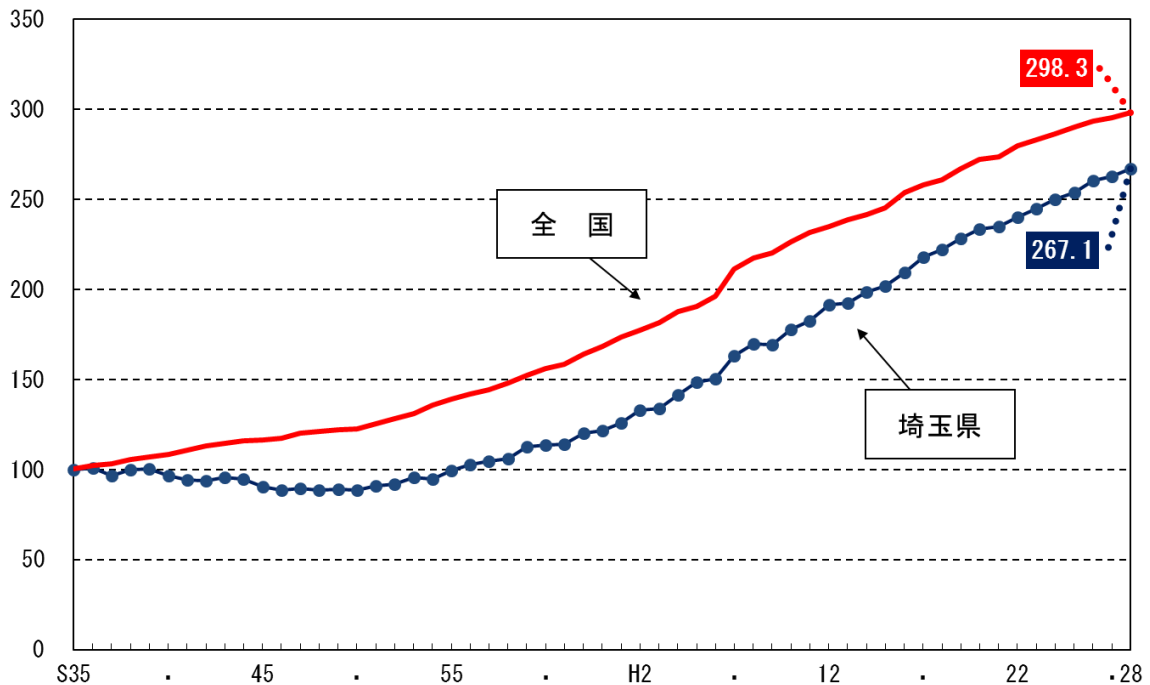
（図－8）

表－10 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	埼玉県 不詳
死亡総数	63 466	264	257	482	1 403	2 737	7 926	15 648	21 981	12 766	2
悪性新生物による死亡数	19 148	22	30	117	425	1 168	3 878	6 428	5 513	1 567	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.2%	0.6%	2.2%	6.1%	20.3%	33.6%	28.8%	8.2%	-
死亡総数に占める割合	30.2%	8.3%	11.7%	24.3%	30.3%	42.7%	48.9%	41.1%	25.1%	12.3%	-

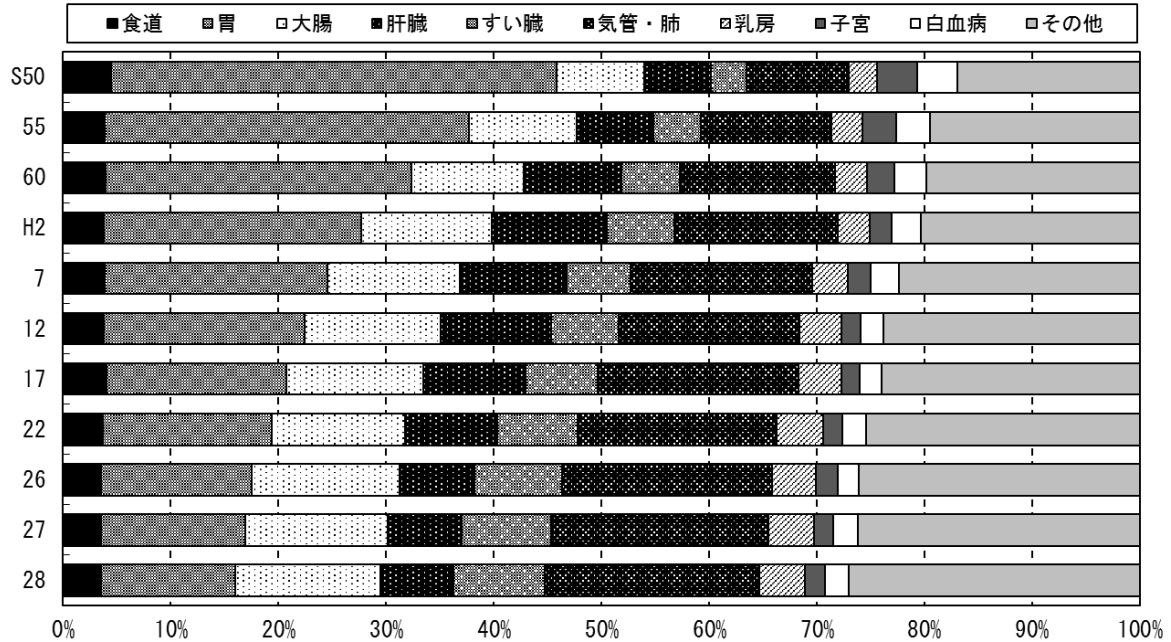
図－8 悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が3,814人（19.9%）で最も多く、平成14年以降第1位となっている。また、平成28年に「大腸」が初めて「胃」を上回り第2位となった。「大腸」は2,571人（13.4%）、「胃」は2,384人（12.5%）である。（図－9、表－11）

図－9 悪性新生物の部位別死亡割合の推移（埼玉県）



表－11 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移

	埼玉県														
	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	26	27	28	
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	18 599	18 823	19 148	
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	655	662	684	
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 603	2 520	2 384	
大腸	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 549	2 494	2 571	
（結腸）	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 716	1 694	1 778	
（直腸）	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	833	800	793	
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 303	1 294	1 299	
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 513	1 567	1 624	
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 618	3 788	3 814	
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	760	806	824	
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	376	331	352	
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	365	435	427	
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 857	4 926	5 169	
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	
食道	4.9	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	3.7	3.5	3.5	3.6	
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	14.0	13.4	12.5	
大腸	8.1	10.0	10.4	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.7	13.2	13.4	
（結腸）	4.2	5.4	6.2	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	9.2	9.0	9.3	
（直腸）	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.3	4.1	
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	9.9	10.2	9.5	8.5	7.0	6.9	6.8	
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	8.1	8.3	8.5	
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	19.5	20.1	19.9	
乳房	1.6	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.1	4.3	4.3	
子宮	5.7	5.5	4.0	3.8	3.1	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.8	2.0	1.8	1.8	
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	2.0	2.3	2.2	
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	26.1	26.2	27.0	

(ウ) 心疾患

心疾患による死亡数は10,026人で、死亡総数の15.8%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が3,785人で最も多く、90歳以上が2,472人、70～79歳が2,172人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が19.4%で最も多く、80～89歳が17.2%、40～49歳が14.3%の順となっている。（表－12）

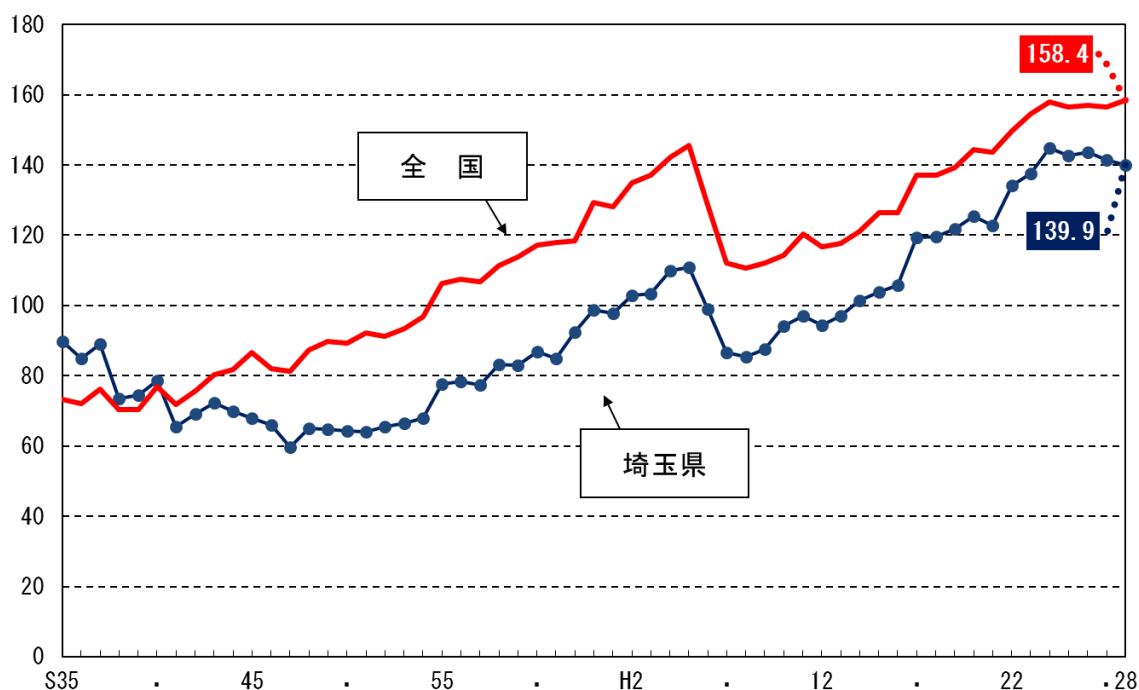
死亡率（人口10万対）は平成7年1月に死亡分類及び死亡診断書の改正が行われた影響で、平成7年に一度大幅な低下を見せたものの、その後は上昇傾向にあった。しかし、平成27年に前年より2.3ポイント低下し、平成28年はさらに1.5ポイント低下し139.9であった。全国は前年より1.9ポイント上昇し158.4である。（図－10）

表－12 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	埼玉県 不詳
死亡総数	63 466	264	257	482	1 403	2 737	7 926	15 648	21 981	12 766	2
心疾患による死亡数	10 026	12	15	50	201	371	948	2 172	3 785	2 472	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.1%	0.5%	2.0%	3.7%	9.5%	21.7%	37.8%	24.7%	-
死亡総数に占める割合	15.8%	4.5%	5.8%	10.4%	14.3%	13.6%	12.0%	13.9%	17.2%	19.4%	-

図－10 心疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



(エ) 肺炎

肺炎による死亡数は6,543人で、死亡総数の10.3%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,904人で最も多く、90歳以上が1,932人、70～79歳が1,253人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が15.1%で最も多く、80～89歳が13.2%、70～79歳が8.0%の順となっている。（表－13）

死亡率（人口10万対）は総じて上昇傾向にあり、平成28年は前年より2.1ポイント上昇し91.3であった。全国は前年より1.1ポイント低下し95.4である。（図－11）

表－13 肺炎による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	63 466	264	257	482	1 403	2 737	7 926	15 648	21 981	12 766	2
肺炎による死亡数	6 543	6	2	10	18	64	354	1 253	2 904	1 932	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.0%	0.2%	0.3%	1.0%	5.4%	19.2%	44.4%	29.5%	-
死亡総数に占める割合	10.3%	2.3%	0.8%	2.1%	1.3%	2.3%	4.5%	8.0%	13.2%	15.1%	-

図－11 肺炎による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）

